

2012年12月19日

「平成24年労働組合基礎調査の結果」に対する談話

日本労働組合総連合会
東京都連合会
事務局長 須永 謙治

1. 厚生労働省は12月18日「平成24年労働組合基礎調査の結果」（2012年6月30日現在）を発表した。労働組合員数は989万2千人、推定組織率は17.9%となり、初めて18%を切る事態となった。今回の調査では、連合の組合員数は683万9千人となり、2010年からは3万6千人の減少、また、連合組合員の全労働組合員に占める割合は69.1%となり、2010年から0.7ポイント上昇した。
2. 都内の労働組合数は、7,602組合（前年比30組合減）、組合員数は207万5,518人（前年比1万6,065人）となった。推定組織率は、23.8%は前年と同数であった。連合東京は、2,963組合（全体比率38.3%、前年比50組合減）、1,037,168人（全体比率50.0%、前年比3,366人増）と微増ではあるが組織拡大に成功した。他のナショナルセンターはすべて組織人数を減少させている中で、連合東京だけが組織数を伸ばしている。
3. 労働力人口が減少し、都内の労働組合総数、労働組合員総数も減少しているなかで、連合東京が組織拡大を維持したことは、関係者の総力を挙げた組織拡大の取組の結果であると受け止める。
4. しかし、これに止まってはならない。健全な集団的労使関係の構築なくしては、雇用の安定や労働条件の向上等を支え、産業・企業の発展、ひいては我が国経済の発展を展望することは難しい。連合東京は昨年の大会で5年間の組織拡大目標として、120万連合東京をめざすことを確認した。120万連合東京実現に向けて組織拡大運動の合言葉“チャレンジ120（イチニイマル）”を確認し目標に向かって運動を展開する。

以上